



TSAG 副議長（新任）

日本電気株式会社

ながま みほ
永沼 美保

〈プロフィール〉

専門領域：情報・サイバーセキュリティ、プライバシー、デジタルトラスト領域（AI倫理、AIガバナンス等）
ルール形成活動（標準化含む）等

2004年 ITU-T SG17に参画（2008年～ラポータ）

2014年 ITU-D SG2に参画（ラポータ）

2018年 ITU-T TSAGに参画（2021年～ラポータ）

2022年 ITU-T TSAG副議長に就任

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

永沼 アジア・太平洋地域、また、日本からの副議長として選出いただき、大変身の引き締まる思いです。同時に、TSAGはSGとは違った難しさや面白さがあり、新たな視点を持って活動していくことを楽しみにしています。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

永沼 標準化は、2002年から関わっています。セキュリティを中心に、ISOで活動を開始し、2004年からはITUへも参加しました。ITUでは、ITU-Tの複数のSG/TSAG、ITU-D、総会やイベントに参加してきました。そのほか、APT（ASTAP）、ETSIや国内外の業界団体等でも活動しています。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

永沼 WTSA-24に向けたSG再編が最重要テーマとなります。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

永沼 副議長、また、マネジメントチームの一員としての中立性を保ちつつ、SG再編に関連する議論をリードしていくことが重要と考えています。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

永沼 どんなに直前にシミュレーションしても、そのとおりにはならないのがTSAGの議論。多様な意見、予想外・想定内の意見……、それらを聞く力や方向性を決める判断力を磨いていくためには、やはり十分な準備や調整の実践が必要と考えています。

—— ポストコロナのTSAGの活動はどうなっていくと思われますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

永沼 定期的な会合は物理会議、中間会合等はリモート活用の促進となると思います。リモートは継続されますが、意思決定には物理開催が必要となりますので、よりメリハリをつけ、双方を有効に活用していくつもりです。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

永沼 TSAGでは、産業界の関与強化は大きなテーマの一つです。世の中のニーズを捉え、ITU-Tの活動に適時に反映させていくための議論はより重要になっています。私自身もセクターメンバーでもあり、政府関係者・産業界の皆様とも是非本テーマを共有し、議論を深めていきたいと思っています。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

永沼 多様性促進を実感する機会も増えており、個人の尊重を大事にしています。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

永沼 大きなチャレンジとなりますが、WTSA-24に向けて尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

【読者のための豆知識】

TSAG（電気通信標準化アドバイザリグループ）の活動内容：ITU-Tの活動の作業方法、優先事項、計画



SG3 副議長（新任）

KDDI株式会社

ほんどう えりこ
本堂 恵利子

〈プロフィール〉

専門領域：ITU-Tにおける事業者間精算の取決めやその他国際標準化団体・国際フォーラム等で扱う政策的事柄

2005年 SG3ラポータ（国際呼携帯着信料金、国際ローミング等）

2012年 ロンドンにてGSMAのモバイルマネープロジェクトほかを担当、並行してSG3ラポータ継続

2017年 SG3ラポータ（課題2：精算全般）

2022年 WTSA-20にてSG3副議長就任

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

本堂 ありがとうございます。無事に、まだ副議長ではありますが、前任の津川氏（元KDDI、2017-2021研究期でSG3議長二期満了）より業務を引き継いでほっとしていると同時に、長年参加してきたSG3のマネージメントチームに加われてワクワクしています。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

本堂 SG3の担当が長くなり、既に私のライフワークと言えます。かつては、国際事業者間料金・精算交渉に関わる事柄が主議題でしたが、近年は、通信事業者以外（例えばコンテンツ事業者）との交渉や、各種新技術の導入等に関わる政策的な共通の考え方を扱うようになってきています。政府間政治フォーラムやOECD等国际機関、GSMA等通信事業者を中心とする民間フォーラムでも同様の議題が扱われている状況です。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

本堂 前研究期に引き続き、OTTプレイヤーに対する政策や各種精算に関わる勧告もしくはガイドラインやレポートづくりがホットなテーマになりそうです。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

本堂 まずはWP1の議事にて、フロアのみんなを迷わせることなく、先導していくことです。よく準備し、よく意見を

聞き、みんなを巻き込み、決断する、といった感じで一步一步、と思っております。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

本堂 SG3参加者の7～8割は途上諸国であり、彼らの寄書や発言の背景を理解した上で議事を進める必要があると思っています。そのため、寄書文面だけでなく、各国の通信・経済事情を理解しておくことに加え、対面会合では寄書提出国をはじめとした出席者と良いコミュニケーションをとっていきたいと考えております。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

本堂 コロナ後、初のSG会合（2022年5月）にジュネーブにて参加しました。やはりマネージメントにおいては、会って話すことから生まれる一体感が醸成されたと思います。対面の場合は、特にコーヒブレイクなどの時間は、その後の展開の大事なターニングポイントとして有効活用したいと思います。オンラインの場合は、コミュニケーションレベルが下がる分を加味して全体的に丁寧かつ慎重な対応が必要だと思っています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

本堂 SG3で扱う議題は、政策的にセンシティブだったり、先進国にとってはピンと来なかったり落としどころの面倒なものもありますが、世界レベルでの業界動向から、日本が今後どういった立ち位置を望むかといった点において重要な課題を扱っていると思っています。そのあたりをご関係の方々とも共有できるよう、いろいろな機会でもSG3の様子をお伝えしたいと思っています。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

本堂 国際会議に初参加する時、「会議を楽しんで来てね」と送り出されました。楽しむの意味は深く、これを体感し続け、少しずつ若い世代に伝えていくことを信条に、と思い始めたところです。プライベートでは、美味しい食べ物、映画、舞台全般、読書はアガサ・クリスティー（特にボワロ）が好きです。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

本堂 引き続きSG3活動へのご協力、ご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

【読者のための豆知識】

SG3の活動内容：料金及び会計原則並びに国際電気通信・ICTの経済及び政策課題



SG5 副議長 (再任)

日本電信電話株式会社

たか や かずひろ
高谷 和宏

〈プロフィール〉

専門領域：通信システムの電磁環境両立性、温室効果ガス削減技術の研究

- 1995年 岡山大学大学院工学部電気電子工学専攻 修了
- 1995年 日本電信電話株式会社 入社
- 2006年 ITU-T SG5に参画、EMCや雷対策の標準化活動に携わる
- 2008年 電磁波セキュリティの課題新設と勧告策定に貢献
- 2009年 気候変動、ホームネットワークの標準化活動に参画
- 2016年 ITU-T SG5 副議長に就任、EMF、EMC、雷対策等の標準化を牽引
- 2022年 SG5副議長に再任

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

高谷 2期目ということもあり、新任のときは気持ちも異なりますが、この2年間、Web会議ばかりでしたので、現地へ赴き、他国の仲間たちと対面で議論したいと思いました。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU (SG) との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

高谷 ITU-Tでの活動領域は、SG5がほとんどであり、2006年より、通信インフラの電磁環境両立性（EMC）問題や雷対策等に関する標準化活動に参加したことが始まりです。2012年からは、SG5に気候変動に係る課題が増えたため、環境的側面の標準化活動にも携わっています。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

高谷 カーボンニュートラルに向けた取組みは、情報通信産業のみならず、すべての産業で重要な課題となっています。特に、通信トラフィックの爆発的な増加による通信業界のエネルギー消費対策はITUにおいても重要な課題です。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

高谷 副議長として、2期目ということもあり、標準化活動にやり残したことがないように、あと2年頑張りたいと思っています。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

高谷 基本的には現地開催、現地での議論が優先される中、Withコロナの制約の中でどのような参加方法が最適なのか、常に問われる課題と考えています。海外、国内の対応状況を見ながら適切な判断をしていきたいと思っています。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

高谷 ITUの基本はコンセンサスであり、コロナ前と同じようにするには、全員が現地で非公式な議論も含め、自由にできたほうがやりやすいと感じます。しかしながら、今会期中は現地参加の考え方に格差が生じるのは仕方なく、過渡期において、何が最適かはその時その時で判断していくしかないのかと思っています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

高谷 気候変動、環境の問題は、人類にとって最も重要な課題であり、情報通信産業の発展に不可欠の課題ととらえています。情報通信産業ができることをオールジャパンで考えていけるように、より多くの方がSG5の活動にご参加いただけることを期待しています。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

高谷 以前は、海外旅行が趣味でしたが、コロナ禍において冷めてしまいました。ゴルフとソフトボールくらいしか、休日の楽しみがなくなりましたので、ポストコロナにおける自分自身の楽しみ方も少しずつ考えていきたいと思っています。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

高谷 環境問題は、大きく分けて、気候変動、生物多様性に係る問題と、廃棄物や物質循環に係る問題の2つがあると考えています。気候変動対策にはなっても、処理が困難な廃棄物がたくさん出るような対策が良い手法として評価されないように、正しく判断できるITU-T勧告の策定に携わってきたいと思っています。

【読者のための豆知識】

SG5の活動内容：電磁界（EMF）、環境、気候活動、持続可能なデジタル化及び循環経済



SG9 議長（再任）

KDDI株式会社

みやじ さとし
宮地 悟史

〈プロフィール〉

専門領域：映像圧縮符号化及びIP伝送、動画配信事業企画及び推進

- 1995年 早稲田大学大学院 理工学研究科修了
- 1995年 国際電信電話株式会社（現KDDI）入社、研究所に配属
- 1998年 ITU-T SG9にアソシエイトラポーターとして参画。映像IP伝送の勧告化を主導
- 2005年 東京工業大学大学院 総合理工学研究科 博士課程修了（工学博士）
- 2008年 KDDI技術統括本部 技術戦略部にて、Android OS搭載ケーブルテレビSTBの試作開発に従事
- 2008年 ITU-T SG9副議長就任
- 2012年 Android OS搭載ケーブルテレビSTB “Smart TV Box” の商品化並びにITU-T標準化（勧告J.295、J.296）
- 2015年 KDDI新規ビジネス推進本部 メディア企画部長
- 2016年 ITU-T SG9議長就任
- 2016年 KKBOX Inc.（現KKCompany Inc.）社外取締役（現任）
- 2018年 KDDIライフデザイン事業本部 エンターテインメントビジネス推進部長
- 2019年 株式会社ブックリスタ社外取締役（現任）
- 2021年 びあ株式会社社外監査役（現任）
- 2022年 ITU-T SG9議長再任（現任）
- 2022年 KDDI マーケティング統括本部 エンターテインメント推進部長（現任）

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

宮地 2016年のITU-T SG9議長1期目の立候補時よりご関係の皆さまには引き続き多大なるご支援をいただき、2期目も選任いただくことができました。ご関係の皆さまに深く感謝申し上げるとともに、ITU-T SG議長という重責を拝命したことに、身が引き締まる想いです。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

宮地 当時の国際電信電話株式会社（現KDDI）に入社以来、一貫して映像領域の業務に従事。入社後最初に配属された研究所では、映像圧縮符号化、映像IP伝送、テレビ電話技術等の研究開発に従事。その後、Android OS搭載ケーブルテレビSTBの試作開発及び商用化を担当。事業部門異動後は、動画配信サービスの事業企画・事業運営の責任者を務めるとともに、テレビ朝日との合弁事業TELASAの設立を主導。ITU活動は、1998年にITU-T SG9（＝ケーブルテレビ伝送）の映像IP伝送に関する研究課題のアソシエイトラポーターとして参加して以来、2008～2016年SG9副議長、2016年SG9議長に就任し現在に至る。今年でITU-T活動25年目。また、2006年～2008年、ITU-T FG IPTV並びにIPTV-GSIに参加。そのほか、Open IPTV Forumにも参加（2007年～2010年）。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

宮地 大きく2点あります。1点目は、SG9のモメンタム回復です。SG9は従前より参加者数40～50名の小さなSGでした。前会期、モメンタム回復に向けて、ジュネーブ外開催やワークショップの併催などに取り組み、参加者数44%増、勧告承認数29%増、ITU-Tへの新規加入9社／団体を達成しました。今会期も引き続き、モメンタムの維持拡大と、SG9の更なる魅力化を進めることが課題です。

2点目は、世界的に見てテレビ視聴の中心が、ケーブルテレビ放送から、AmazonやNetflixに代表されるOTTにシフトする傾向にあります。この流れを受け、ケーブルテレビインターネットの高速化技術に引き続き取り組むとともに、IPへの統合によるシステム全体の効率化に向けたケーブルテレビ放送のIP化を進めることが重要テーマです。

—— 議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

宮地 次のWTSA-24では、ITU-Tの組織見直し検討が本格化することが予想されます。今会期は、この準備期間と

して、SG9の活動成果が問われる非常に重要な期間と認識しております。SG9として、ケーブルテレビ関連技術課題の解決や進化に貢献するだけでなく、ケーブルテレビ業界の事業成長に資するための先端技術開発にも取り組みます。このように、SG9の業界への貢献を明確化し、存在意義を高めていく所存です。

—— 議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるのでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

宮地 ケーブルテレビは、その物理的な性質上、各地域や国に閉じたネットワークとなっています。これに起因して、各国で独自の技術開発が行われることがしばしば起こり、ITU-Tの場でグローバルコンセンサスを得られるよう導いていくことが必要となります。このためには、提案者とオフラインで会話し、提案の意図や達成目的を確認・交渉しながらITU-T勧告としてのゴールを見いだすことを並行して行うことが重要です。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

宮地 世界中で進行するデジタル化（DX）及びコロナ禍での生活様式の変化を経て、人々の生活は過去に無い水準で“通信に依存”するものとなりました。このため、技術的要因やセキュリティ脅威等によって通信障害がひとたび発生すると、社会生活や経済活動に甚大な影響を及ぼす状況となっています。ITU-Tは、様々な観点から改めて通信の信頼性向上に向けた活動に取り組むことが求められ

ていると考えます。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

宮地 不安定な世界情勢、日本の人口減少や経済成長の鈍化といった背景を踏まえると、我が国の持続的成長には大変な困難が予想されます。このような状況下こそ、経済安全保障確保のためのツールの一つとして、ITUに代表されるデジュール標準化機関での活動を国の戦略策定の中で具体的に定義し、体制構築と実行につながることを期待します。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

宮地 「常に目的意識を持つ」ことを信条にしています。プライベートでは、街歩き、キャンプ、旅行などを楽しんでいます。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

宮地 このような時代において、ITUのような国際標準化機関は、何のために存在し、どのように使い倒していくべきなのか？ぜひ皆さま一人ひとり考えてもらえたら幸いです。そして、何かの実現のためにITU活動をやってみたい、と思った際には我々ITU関係者に気軽に声がけください！

【読者のための豆知識】

SG9の活動内容：音声映像コンテンツ伝送及び統合型広帯域ケーブル網

ITUが注目しているホットトピックス

ITUのホームページでは、その時々ホットトピックスを“NEWS AND VIEWS”として掲載しています。まさに開催中の会合における合意事項、ITUが公開しているICT関連ツールキットの紹介等、旬なテーマを知ることができます。ぜひご覧ください。

<https://www.itu.int/en/Pages/default.aspx>



SG12 副議長（新任）

日本電信電話株式会社

やまぎし かずひさ
山岸 和久

〈プロフィール〉

専門領域：性能、QoS及びQoEの研究・標準化

2003年 早稲田大学大学院基幹理工学部 修了

2003年 日本電信電話株式会社入社

2005年 ITU-T SG12に参画、品質評価技術の標準に携わる

2013年 早稲田大学大学院基幹理工学部 博士（工学）取得

2013年 NTTぶらら 技術開発本部

2017年 ITU-T SG12 ラポータ就任（現在に至る）

2021年 ITU-T SG12 WP3副議長就任（現在に至る）

2022年 ITU-T SG12 副議長就任（現在に至る）

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

山岸 2005年にITU-T SG12に参画してから、勧告エディタ、ラポータ、WP副議長と歴任し、この度、SG12副議長に任命されました。多くの方のサポートもあり、ベテランの議長、副議長がいる中で任命され、大変光栄に存じます。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

山岸 入社以来、映像配信等の映像系の品質評価技術の研究開発を進めており、SG12に2005年に参画し、TV電話、IPTV、アダプティブビットレート映像配信等の品質推定技術の標準化に貢献してきました。これらの勧告の制定を重ね、他国の提案をまとめるためラポータやWP副議長として活動しております。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

山岸 5G等のネットワーク技術が進展することで、新たな通信サービスの展開が期待されます。そのようなサービスの品質もまた、従来の電話や映像配信サービス同様に評価できるようにしていくことが、安定した通信サービスの提供には欠かせません。このような新サービスに対し、タイムリーに勧告を提供していくことが重要だと考えています。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

山岸 5G、6Gと新しいネットワークが展開され、新しいサービスも創出されてくることが予想されます。QoS・QoE関連技術は、サービス展開されたのちに技術確立されることが多く、技術創出のタイムリーさに欠ける面があります。そのため、この時間を短くしていくことを進めたいと考えています。—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものか想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

山岸 Work itemで検討内容を合意しても、そこから勧告を制定するまでには、多くの検討や合意が必要になります。加盟国や参加機関により、重要視する項目は異なるため、それらを見極め、妥協点を見つけ進めていくことが重要だと考えています。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

山岸 コロナウイルスの拡散により、オンライン会議の開催が当たり前の時代に突入しました。これにより、フレキシビリティも高まり、通常であれば、他のSGの会議に参加することは難しかった点が、オンラインで議論に参加することも容易になりました。現地で濃密に議論することもちろん重要ですが、このように現地とオンラインの組合せにより、より活発に議論ができるようになっていくと考えますし、そのようにしていかないといけないと考えています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

山岸 SG12で取り扱う品質に関連することだけではなく、サービスの品質を議論する上では、政府関係やICT産業界からのインプットだけでなく、将来的な学術検討をする大学などの協力も不可欠です。その中で中長期的に何を実施していくかを合意し、勧告としてまとめられるように協力していくことが重要と考えます。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

山岸 新しいことを進めるには、単に想像力だけを働かせるのではなく、実際に手を動かしてみ、進めていくことが重要と感じます。そのように考えるからか、瞬間的に周囲状況を判断し進めていくスポーツを観戦することが好きですし、日々ランニングをしています。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

山岸 様々な技術開発が行われ、サービス提供されますが、最終的にはユーザがどのようにその品質を感じるかが重要です。SG12では体感品質に重点を置き検討を進めており、読者の皆様にもなじみやすい検討だと感じます。

【読者のための豆知識】

SG12の活動内容：性能、サービス品質（QoS）及びユーザー体感品質（QoE）



SG13 議長（新任）

国立研究開発法人情報通信研究機構

たにかわ かすのり
谷川 和法

〈プロフィール〉

専門領域：Ma マルチメディアシステムの研究開発、標準化

1987年 早稲田大学理工学研究科機械工学専攻修了

1987年 日本電気株式会社入社

2007年 FG-IPTV, SG13, SG16参加、IPTV端末技術標準に携わる

2021年 情報通信研究機構入構

2022年 ITU-T SG13議長就任（現在に至る）

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

谷川 「驚き」以外の何物でもありません。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

谷川 マルチメディアアプリケーション及びそのネットワーク（LAN、広域網、衛星通信等）の研究開発に携わっています。2000年頃のARIBでのデータ放送の標準化を手始めに、2007年からSG13及びSG16でIPTV端末及びネットワークの標準化、2012年からSG16でデジタルサイネージの標準化、2017年ごろからIMT-2020ネットワークのソフト化の標準化を担当してきました。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

谷川 AI、QKDN、コンピューティングとコミュニケーションの高密度結合、デジタルツイン等の多方面からの新技術の導入とURLLCやVR/AR等の新サービスで求められるエンド・ツー・エンドの品質保証実現の取り組みが重要と考えています。

—— 議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

谷川 SGでの活動に勢いがある反面、様々な運営上の課題（活動テーマの類似性、標準化目標の曖昧性等）も顕在化してきています。効率的で効果的な審議の実現に向けて、ルールの見直しからSG活動の適正化を実施していきます。

—— 議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

谷川 マルチステークホルダーが参加する会議での利害関係の調整は常に付きまとい、従前以上にシビアな状況になることも少なくなく、バランスの取れた議事運営が求められます。当たり前のことですが、当事者の声を親身に聞くことが重要だと思います。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

谷川 皆、バーチャル会合にも慣れてきたので、フィジカルとバーチャル会合をうまくミックスして標準化の活動サイクルを適正化していきたいと思います。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

谷川 ICT全般にわたり新たな技術潮流が顕在化してきており、（個別技術の役割や期待が必ずしも明確ではない状況においても）一度SGに話題を持ってきて専門家間で議論していただけると幸いです。SGは本来アカデミックな議論の場ではありませんが、今は時代の流れをつかむことがより重要ではないか、と感じています。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

谷川 何事も駄目だと分かるまであきらめない。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

谷川 SG13への積極的な参加をお願いいたします。まずは、（寄書活動の前に）何が議論されているのかだけでものぞいていただけると幸いです。

【読者のための豆知識】

SG13の活動内容：将来網及び新興ネットワーク技術



SG16 副議長（再任）

沖電気工業株式会社
やまもと ひで き
山本 秀樹

〈プロフィール〉

専門領域：映像配信システムの設計・開発・導入・保守・標準化

1984年 京都大学電気工学科卒業

1984年 沖電気工業株式会社入社

1995年 東京大学博士（工学）

1999年 映像配信関係の開発・事業化・標準化に従事、現在に至る

2022年 ITU-T SG16副議長再任

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

山本 今回は2期目ですので1期目よりも、より積極的にSG16の標準化に関わっていきたいと考えています。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

山本 入社後DB、AI、映像配信の製品開発・事業化に携わってきました。映像配信に関連して2000年ごろから国内のARIB・TTC、APT、ITU-Tの標準化に関わってきました。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

山本 AI、ブロックチェーン、仮想現実感及び高画質映像配信・再生が必要なメタバースの基本的な標準化が進むのではないかと見ています。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

山本 SG16に参加される専門家の標準化活動を他の国際標準化団体・業界団体と整合した形で進むように、うまく橋渡しをしていきたいと考えています。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

山本 新しい分野は、その分野の業界標準団体とうまく関

係を築き、必要な国際標準を作っていくことが重要だと考えています。New Normalで直接会わなくてもコミュニケーションすることがある意味普通になったので、それを生かして関係を構築していきたいと考えています。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

山本 決定事項に応じて、会議はオンラインまたはハイブリッドなもの、直接参加が必須なものに分けられていくと思います。海外から国内の仕事の会議にオンラインで参加することが容易になったので、できればハイブリッドな会議でも直接参加できればと考えています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

山本 SG16は自動運転、ドローン、ブロックチェーンなど比較的新しい分野の標準化に取り組んでいます。我が国はじめ各加盟国の政府関係や産業界から積極的にご提案いただき、より便利な新しいサービスのための標準ができることを期待します。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

山本 60才を過ぎたので新しいことを始めて脳に刺激を与えねばと、7月に初めてのゴルフに行く約束をしたのですが、WTSA-20の帰りの飛行機に乗る直前に転んで小指を骨折。これがなかなか治らず、十分な練習ができず、当日も小指は曲がったままでしたが、何とかコースを回りきりました。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

山本 SG16の取組みは今後も拡大していくので、新しい分野の標準化をお考えの方はご相談いただければと思います。



■初ゴルフを終えて

【読者のための豆知識】

SG16の活動内容：マルチメディア及び関連デジタル技術



SG17 副議長 (再任)

株式会社KDDI総合研究所

み や け ゆ た か
三宅 優

〈プロフィール〉

専門領域：ネットワークセキュリティに関する研究開発、標準化

- 1990年 KDD株式会社入社、KDD研究所配属
2005年 ITU-T SG17の活動に参加、P2Pセキュリティ標準化
2009年 SG17課題6アソシエイトラポータ、IoTセキュリティ標準化
2017年 SG17副議長、WP1議長、パーソナルデータ保護標準化
2022年 SG17副議長、WP2議長（現在に至る）

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

三宅 SG17副議長に推薦していただいた皆様に感謝します。2期目ですので、これまでの経験を活かして、WP2議長職やSG17が関与する各種活動に貢献し、ITU-Tのプレゼンスを向上させていきたいと考えています。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

三宅 各種セキュリティ対策の研究開発に携わってきました。SG17には2005年の設立当時から参加しています。また、oneM2Mにおけるパーソナルデータの保護機構の提案や、GSMAにおけるモバイルセキュリティの活動に参加しています。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

三宅 5G/B5Gの展開によりインターネットとモバイルネットワークの融合が進み、新たなネットワーク機能やアプリケーションが出現しています。これらのセキュリティ確保は、ネットワークサービスを提供する上で重要課題となってきました。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

三宅 多くのセキュリティ案件が存在する中で、ITU-Tとして取り組むべきもの、現時点で必要とされているものを的確に判断し、迅速に勧告化する取組みが必要かと考えています。ITU-T以外からも注目される勧告作成に貢献できればと思います。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうかお考えでしょうか。

三宅 様々な提案や意見が出される中で、それぞれの国や人の意見を尊重しつつ、ITU-Tの役割に沿って議事や議論等を進行させることが重要と考えています。Mandateを踏まえて原理原則に沿った対応が重要かと思います。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

三宅 コロナ禍のリモート会合によりSG17の会合参加国、参加者は増加したものの、直接会話をする機会が無くなり、議論の調整が難しくなりました。また、体制変更等、議論が先延ばしされた案件もあります。コロナ禍により、世界的に通信の利用も加速されましたので、各国との意見調整も積極的に行い、ITU-Tとしてこの流れに沿った体制変更の検討や議論の活性化を進める必要があると思います。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

三宅 5G時代になり、これまで以上に各国政府が通信インフラの重要性について言及し、セキュリティへの取組みも強化しています。通信インフラがオープン化に向かう中で、その安全性確保を実現するために国と産業界が連携した取組みができる場になればと思います。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

三宅 コロナ禍で在宅勤務も多くなり、外出の機会も減りましたので、フィットネスバイクを購入して室内でも運動を積極的に行うようになりました。最近のバーチャルサイクリングのアプリはよくできていて、ゲーム感覚で楽しんでいます。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

三宅 SG17では幅広いセキュリティの分野を取り扱っています。皆さんの分野とも連携させていただいて、相互の活動の活性化を進めることができればと思います。

【読者のための豆知識】

SG17の活動内容：セキュリティ



SG20 副議長（新任）

日本電気株式会社

やま だ とおる
山田 徹

〈プロフィール〉

専門領域：IoT・スマートシティ領域の標準化

- 1995年 横浜国立大学 工学部 電子情報工学科 卒業
- 1997年 同大大学院 工学研究科 電子情報工学専攻 博士課程前期修了
- 1997年 日本電気株式会社（NEC）入社
- 2013年 首都大学東京（現東京都立大学）大学院 システムデザイン研究科 博士課程後期 修了
- 2015年 ITU-T SG20発足より参画
- 2017年 APT ASTAP EG IOT議長に就任（現在に至る）
- 2022年 ITU-T SG20副議長就任（現在に至る）

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

山田 ありがとうございます。2019年に前任の方を引き継ぐ形で暫定的に副議長を担当していました。今回、WTSA-20にて正式に副議長に任命されました。仮免許から正式な免許に切り替わったような気持ちでいます。気を引き締めて頑張りたいと思います。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

山田 2015年のITU-T SG20発足当初から参加しております。弊社事業と関連するIoTアプリケーションの勧告作成やスマートシティユースケース集作成を提案し、エディタを担当してきました。その他の機関では、APT ASTAPにおいてIoT分野の専門家グループの議長を担当しています。また、若い頃は映像関連技術の研究開発をしており、ITU-T SG9に参加したことがあります。その時に国際標準化の仕事は難しいけれど、面白いと思いました。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

山田 都市のデジタル化（デジタルトランスフォーメーション）に関する標準化、特に都市サービスのデジタルツイン

やデジタルツイン同士の連携についてのテーマが重要になると考えています。これらに関する提案文書数が増えています。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

山田 ITU-T SG20の第1回会合が2022年7月に開催され、ITU-T JCA IoT and SC&CのCo-Convenorへの就任が承認されました。この活動では、ITUや外部機関でのIoTやスマートシティに関する標準化動向を収集し、標準化ロードマップを作製します。この活動を通じて、この分野の標準化動向を把握し、次に何が起こるか予測力を上げていきたいと考えています。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

山田 自社の利益の観点ではなく、公平公正の観点で議論を見ないといけな場面が出てくると思います。発言する際には、どちらの立場での発言が明確にして対応すべきと考えています。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われますか。

また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

山田 物理参加とリモート参加のハイブリッドの会議形式が定着し、物理参加の機会が増えてくると思います。今（2022年7月）、ジュネーブで開催中のITU-T SG20会合に参加しています。会議場でのマスク着用は少数派です。挨拶の際は、グータッチや肘タッチではなく普通に握手をしています。会合期間中に感染してしまった他国の参加者もいるようです。日本とは異なる感染防止対策を導入している国で開催される会合への物理参加の仕方について、国内で情報共有を進めるべきと考えます。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

山田 ITU-T SG20は、スマートシティを担当している各加盟国の政府関係者が参加しており、彼らと直接意見交換できる場となっています。日本のICT産業界の一員として、積

極的に意見交換し各国の都市課題を把握することで、日本のスマートシティソリューションのグローバル展開推進につながることを期待しています。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

山田 写真のとおり、若い頃から東南アジアへの旅行が好きで、異なる言語・文化を持つ人と話をするのが大好きでした。国際標準化の会合でも、そのときの気持ちを忘れずに参加しています。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

山田 ぜひITU-T SG20にご参加いただき日本のプレゼンスを高め、「スマートシティと言えば日本」と世界から言われるくらい積極的な活動を進めたいと思います。よろしくお願いいたします。

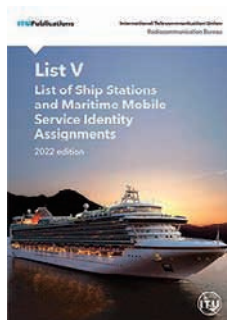


■ 東南アジアのラオスとタイが大好きで毎年訪問していました。両国の国境を流れるメコン川で泳ぐと気持ち良いです。

【読者のための豆知識】

SG20の活動内容：IoT並びにスマートシティ及びコミュニティ

国際航海を行う船舶局に必須の書類 好評発売中！



**船舶局局名録
2022年版
-New!-**



**海上移動業務及び
海上移動衛星業務で使用する便覧
2020年版**



**海岸局局名録
2021年版**

お問い合わせ：hanbaitosho@ituaj.jp

